

限府の都市形成における水辺空間の変遷に関する分析

熊本大学工学部社会環境工学科 学生員 ○池田 一平
熊本大学政策創造研究教育センター 正会員 田中 尚人

1. はじめに

現在、菊池市では菊池市総合計画において「豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち」を理念としてまちづくりを行っている。その菊池市の中心市街地である限府には築地井手と新堀井手と呼ばれる2本の水路が流れている。しかし、井手は暗渠化されており、井手が活用されている場所は一部だけとなっている。

そこで本研究では築地井手と新堀井手及びその周辺を水辺空間と定義し、限府において水辺空間が現在に至るまでの経緯を都市の変遷と共に把握する。また、現在の限府における水辺空間の立ち位置を考察する。

2. 水辺空間に着目した限府の現状

築地井手や新堀井手および限府の概要を調べると同時に現地調査から得られた情報を基に限府における水辺空間の現状を把握する。

(1) 限府界隈の成り立ち

限府の北端を流れる迫間川の作る扇状地上に形成された地域である。中世、限府は城下町であり、現在も街並みには城下町らしさが残る。江戸時代に入り、城は取り壊されたものの地域の中心として発展した。明治以降も行政機関が集中し地域の中心的役割を果たした。戦後には温泉が採掘された。現在は幾度かの市町村合併を行い、菊池市の中心市街地として市役所や商店街、高校などが立地している。

(2) 築地井手・新堀井手の概要

築地井手は菊池川から分水した灌漑用水路である。江戸時代初期に開削されたとみられる。加藤清正が開削に関わったとされているが資料が少なく正確なことは分かっていない。限府の市街地に入る手前で分岐しており、北側を流れる井手を築地井手、南側を流れる井手を新堀井手と呼ぶ。新堀井手は城下町であった頃の内堀を利用したものとされている。築地井手が灌漑した水田の面積は228haとされる。周辺の住民は井手を防火や生活用水路及び排水路としても利用した。戦後、築地井手は市街地においてほぼ暗渠化され

たが、その後一部復元されている。

(3) 水辺空間の現状分析

現地調査などから得られた情報を基に現状の築地井手と新堀井手と限府の様子を図-1に示した。現在、新堀井手沿いには市役所の一角を利用して公園(写真-1)が設けられており、井手沿いに歩道も整備されている。築地井手沿いにはポケットパーク(写真-2)が整備されている。築地井手の暗渠化された区間で横井手端のみ復元されている。一方で、井手周辺に水田などの井手の水を利用するような施設はほとんど見当たらない。生活用水として利用された他の水路に見られるような洗い場や水辺に降りる石段などは見つけられなかった。



写真-1



写真-2

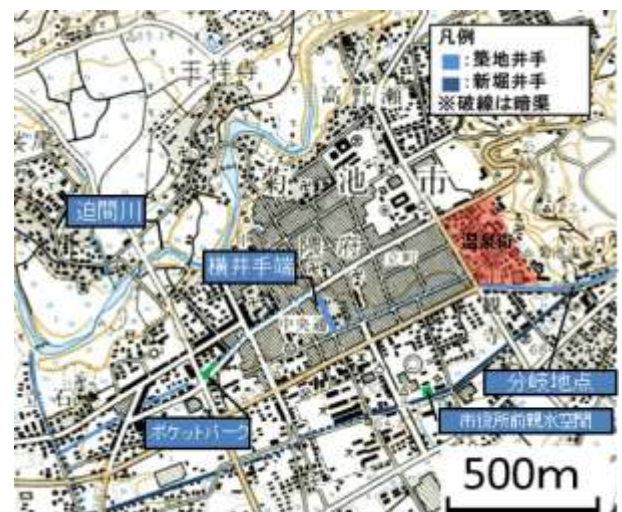


図-1 現在の限府と井手

3. 限府における都市形成の歴史的解析

明治時代以降の水辺空間及び限府周辺のインフラ整備や都市での出来事など都市整備に関する事象を整理する(表-2)。そこから都市整備の過程と水辺空間の変化の関係を考察する。

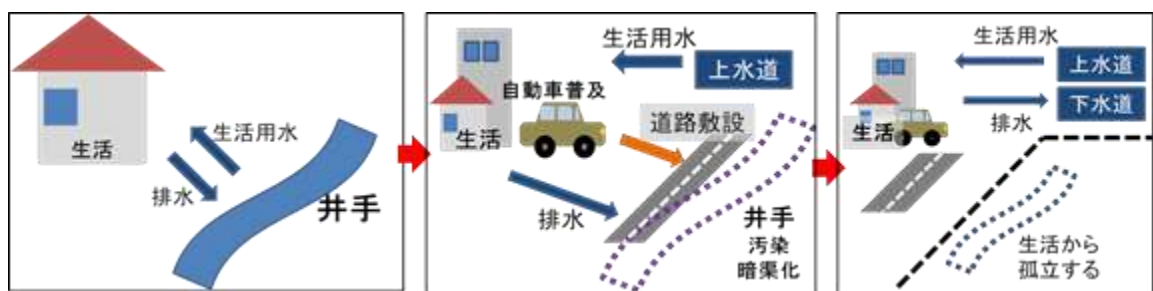


図-2 都市と井手の関係の変遷



図-3 限府における平面図の変遷

表-2 限府における都市整備年表

	水辺空間	道路交通	上下水道	その他事象
1868年				明治維新
1879年				菊池・合志郡役所設置
1913年		菊池軌道全線開通		
1945年				温泉探掘決定・終戦
1954年			上水道事業着手	温泉湧出
1955年				
1956年				
1958年			上水道竣工	限府町等が合併し菊池町となる
1959年				菊池町が市制施行
1961年		都市計画街路事業着手		
1965年				このころから急速に自家用車普及
1970年	下町の井手で溢水	↑		
1972年	築地井手に蓋がされる	道路整備急速に進む		
1979年		↓	都市下水路の決定	
1983年			公共下水道の決定	
1986年		限府・御代志間廃線		
1987年	築地井手復元案が出るも先送り			中心街活性化案
1993年	築地井手景観形成事業に着手			
1998年	横井手端復元			
2000年	マスタープランで築地井手の活用が表記される			菊池市都市計画マスタープラン
2004年				菊池市都市計画区域マスタープラン
2005年				合併し新たに菊池市となる

各事象と時系列を整理することにより井手が現在の姿へと至った経緯を考察し図-2 に示した。都市の形成過程で生じた汚染や井手の暗渠化によって井手と人々の生活の距離が開き、さらに上下水道の整備によって井手が担っていた生活における役割は失われた。これらのことから現在、井手は人々の生活から孤立した状態ということが言える。

4. 限府における都市構造の変遷

平面図を用いて都市の形成過程を把握するとともに、井手周辺の土地利用状況の変化を確認する。1902

年から1990年までの限府の平面図の変遷を図-3 示した。戦前、新堀井手の周辺はおもに水田であったことが分かる。築地井手は限府の街の南端を流れ、道路を挟み水田に面していたことが分かるが次第に両側に建物が出来ている。戦後、街が南へ拡大していき築地井手は市街地を流れる水路となった。また新堀井手沿いにも道路が新たに敷設され周辺は水田から都市に変わっている。このことから井手の本来の目的である灌漑用水としての役割は減少したと言える。

5. まとめ

都市の拡大や人々の生活様式の変化が限府における水辺空間に大きな影響を及ぼしていることが分かった。かつては、生活の一部であった井手も現在では人々の生活から孤立した存在となっていると推察された。

謝辞:本研究を進めるにあたり資料提供等にご協力を頂いた菊池市に深く感謝する。

参考文献:1) 菊池市, 菊池市史上巻, 1982 2) 菊池市, 菊池市史上巻, 1986 3) 菊池市, 菊池市都市計画マスタープラン, 2000 4) 菊池市, 菊池市総合計画 後期基本計画, 2010